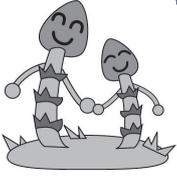


つくしだより



令和6年10月号

予算要望に関する懇談会報告

都連副会長 榎田 英夫

日時 2024年9月2日

場所 東京都第二庁舎 31階会議室

参加者 都側 福祉局 教育庁計9名

つくし会側 都連5名 単会10名

コロナ禍がいくらか収まってきたので、今年では以前のように単会からの参加者を募りました。

つくし会が都に対して先に要望した7項目に対し都側がまずその回答をいたしました。以下つくし会の要望項目に対しての質問と都側の回答です。

【一】アウトリーチ事業の充実

〈回答〉三か所の精神保健センターでアウトリーチ事業を行っている。区市町村に対して包括支援事業のメニューでアウトリーチ事業を支援している。センターのアウトリーチ事業が6か月で終了するとは限らない。
(質問)アウトリーチ実施区市町村で14が区で、市が1で変わりはないかセンターでのアウトリーチ事業の令和4年度の実数は？アウトリーチ期間が6か月での終了では短すぎる。

〈回答〉令和4年で実数75名である

【二】精神科医療の充実

〈回答〉身体合併症を発症した患者

は治療できるよう受け入れている。一般科病院と精神科病院の地域連携を進めている。透析医療機関についても患者を受け入れるよう指導している。

〈質問〉透析の治療について、今年度から都が看護師等の派遣で補助金を出すようになったが実績は？滝山病院や療養型病院からの受入は？

〈回答〉病院が申請する制度で、全精神科病院に通知しているが今のところ一件もない。都立病院の受入れは医療保健局の所管で不明である。

【三】精神科夜間休日救急診療

〈回答〉区部と多摩の2圏域で対応している。救急患者の移送については法令に基づき適切に対応している。基本的には「ひまわり」を通して、24時間³⁶⁵日受け入れることになっている。

〈要望〉現実として移送は民間業者に頼らざるを得なく多額の費用がかかる。補助をお願いしたい。

〈要望〉「ひまわり」の実態が制度と異なっている。改善を要求する。

【四】思春期における早期発見

〈回答〉中学校の保健の授業「心の健康」の中で生徒が理解できるよう努めている。研修については、教職

員研修センターで行っている。啓発事業として「障害者キャラバン」を新たに実施した。スクールカウンセラーは全公立学校に配置し日数を35日から38日に増やした。

〈要望〉週一回では少ない。次は1週間後となる。常勤を要望する。

【五】福祉手当について

〈回答〉所得補償は国の役割であるので支給しない。

〈要望〉都は0才から18才まで月五千円を支給している。これは所得補償である。全都に福祉手当の支給を要望する。

【六】重度心身障害者医療費助成適用拡大について

〈回答〉現行は一級のみで二級への拡大は考えていない。
〈要望〉経済的な面で医療にかかれないうことがあ。医療費助成の拡大を強く要望する。

【七】家族会活動への支援

〈回答〉施設を貸すことは空いている施設がないので無理であり、家賃補助についても困難である。家族相談員は、行政の方で対応している。

〈要望〉事務所維持のための費用が高額である。家賃補助をお願いする。

多摩ブロック「家族相談養成講座」

都連理事 安藤 万寿代

日時 8月31日(土) 10時～12時

場所 府中市立片町文化センター

講師 西村由紀氏(特定非営利活動法人メンタルケア協議会副理事長・精神保健福祉士)

(参加者25名)

※事例(1) (府中・梅の木会)

「人格障害は治らないと言う世間の嘘」

人格障害の娘を持つ親御さんからの相談で、娘さんの生活に大変な困難があり、彼女の興奮を治める為に、お母様とは距離を取りました。二年後、彼女と会うと以前の様に荒っぽさがなく、穏やかで優しい言葉使いになり、聞く所によると彼女は、仏教を学んだそうです。どの様な病でも環境の変化で治ると実感しました。

・会場からのお話・お母様と娘さんの、距離を置くのは良かったです。自分の話ばかりするのは自己愛性人格障害と思います。当事者によって、家族がつぶれないようにしたいです。

・西村先生からのコメント・「人格障害」と「発達障害」の区別が付かない「境界性人格障害」もあります。主治医の先生は「人格障害」では障害手帳や障害年金がいただけないので、本人の為になる様に別名を付けていま

す。きめ細かな支援体制が必要です。

※事例(2)

(西東京・小鳩会)

「娘を転院させたいがどうしたらよいか」

娘は統合失調症で3回入院を繰り返して、今、4回目の入院。入院の度に、薬の量が多くなり状態も悪く、転院を考えています。

・会場からのお話・先ずは、本人の希望が大事です。他の病院へ行って、良くなった事例もあります。

・西村先生からのコメント・病院の先生の考えや見方が一人ひとり違うので、納得できるまで病院を探し、病院との繋がりを持つ事が大事です。環境の変化で病気が悪化する事もあり、慢性疾患は適切な治療が必要です。

23区ブロック「家族相談員養成講座」

都連副会長 本田 道子

9月3連休の真ん中の日曜日にもかかわらず、たくさんさんの参加で頭が下がります。

この日もまだまだ暑い夏がつづきで汗がふきでる中での東京都障害者福祉会館への到着です。

本日も講師は「メンタルケア協議会」の西村氏にお願いをいたしました。

西村氏ご自身もその日の午後は相談員としての研修に参加なさるということでした。相談の奥の深さ、を思います。

本日のケースは2例です。

最初は現在入院中で退院先について。

家族は本人の暴力もあることから自宅以外のグループホームを希望。

すでに相談支援事業所にも相談している。

何件かの候補の中からどのようにして選ばよいか、という本人とのマッチングの問題です。現在も進行中のケースで既に受け入れ先はほぼ決定している、とのこと。検討してゆく中で現状のグループホームの実情についてたくさんさんの意見が出されました。

「住まいとケア」は重要で緊急な課題です。特に精神障がいの特性から世話人の質は病の進行とは切り離せませんから。

2件目のケースは

今までの親としての自身の対応についての考察のレポートがあり、講師からのコメントをいただきたい、というものでした。

西村先生からはしっかりと対応がなされていて、先生ご自身も参考にしたい、とのこと。私が先生のことばの中で印象に残ったのは

「他人を変えることはできない、ので本人が変わることです」

人間関係の鉄則ながら、改善の最良の法則。みなさまお疲れ様でした。



本年度第一回多摩・23区のブロック会議

都連理事 寺澤 元一

本年度第一回の多摩、23区のブロック会議がそれぞれ開催されました。

多摩…8月31日、府中市立片町文化センター、17単会 計27名

23区…9月15日、東京都障害者福祉会館、15単会 計25名

会議では、活発な意見交換と温かい懇親が行われ、有益で楽しい語らいの場となりました。皆様に心からお礼申し上げます。特に、府中梅の木会様には、いつも多摩地区での会場設営に御協力いただき、感謝します。

先ず、両会議での都連側の主な報告事項を紹介いたします。

令和七年度東京都予算要望

冒頭、眞壁会長から挨拶とともに、令和七年度に向けた東京都への予算要望のヒアリングの実施について説明しました。いまだ残暑きびしい8月27日から9月2日にかけて、東京都、都議会各党派との意見交換を行いました。都連メンバーに加えて、いくつかの単会からも参加者を得て、活発にご発言いただいたことは、都に対し、家族会の思いを強く印象付けたことになったと思います。東京都の回答には、一部ながら改善をうかがわせるものもありましたが、実効性があ

るのか否か吟味し、引き続き各単会とともに要請し続ける必要があります。

滝山病院

都連側からの報告として、①滝山病院からの転院を希望している患者を受け入れた病院は、都内の民間86病院のうち未だ数病院にとどまっており、20数名が残留している、②8月末に理事長・院長が辞任し、後継体制については、医療法人としての孝山会は残り病院機能は残る、③法人を買収した出資社は医療業界とは関係ないが、経営の合理化を図る可能性がある、④新院長には、元東京医科大学八王子医療センター長が就任したこと等を説明しました。

みんなねつと北海道大会

大会への参加者数は、いまだ少ないため、皆様の積極的な参加が求められます。申し込みは、オンラインでも電話でも受け付けが可能。Zoom参加も含め、後日のYoutube配信も視聴できるそうです。基調講演は向谷地べてるの理事長が当事者家族の経験の可能性について、伊藤淑徳大学准教授が家族会の可能性についてお話しになります。奮ってご参加ください。

各単会からの報告

いずれの単会からも、共通する課題として、会員の高齢化と減少、役員のみならず、活動資金と事務局体制の窮状について訴えがありました。一方、その中でも、各会が創意工夫を凝らしながら、講演会や家族相談会等の様々な活動を地道に続けていることが報告されました。各単会では、それぞれの市区町村に対し独自に予算要望（福祉手当や活動補助金等）をおこなっているが、やはり各自自治体ともに都からの補助金に依存しているため、今後とも各単会と都連が結束して、都に働きかけていく必要性が確認されました。参加者からは、ブロック会議では、報道では接しない情報も得られたとの感想もありました。

賛助会員の募集

最後に眞壁会長から結びに代えて、各単会に対し、「東京つくし会賛助会員入会のお願い」、払込取扱票、会のパンフレットのセットを席上に配布した上で、都連の資金強化が各単会への活動支援にもつながるため、会員家族のかかりつけの病院、クリニックに賛助会員になっていただくよう、働きかけについて協力をお願いしました。

★ 賛助会費 ★

榎本クリニック 5000円
匿名希望 2000円
匿名希望 2000円
匿名希望 2000円
ありがとうございます。

★ 講演会のお知らせ ★

○みんなでやろう家族SST
日時 11月2日(土) 午後1時半～4時
講師 高森 信子先生
会場 二幸産業・NSP健康福祉プラザ
6階集会室 申込不要 参加費無料
主催 サンクラブ多摩 ☎042-371-3380

○家族セミナー①精神科医師のお話
日時 11月3日(土) 13時半～15時半
講師 周愛巢鴨クリニック花田照久医師
○家族セミナー②散歩で発見「減災の秘訣」
日時 11月17日(日) 13時半～15時半
講師 根津 力三氏

会場 スマイルなかの3階A・B会議室
共催 たんぽぽ会 (中野区精神障害者家族会)・中野区地域支え合い推進部
参加費無料 予約制先着40名
申込・問合せ 中野区中部すこやか福祉センター ☎03-3367-7788

○“超短時間雇用”ご存じですか?
日時 11月5日(火) 13時半～16時
講師 東京大学先端科学技術研究センター
教授 近藤武夫先生
会場 阿佐ヶ谷地域区民センター
主催 杉並家族会

☎090-4535-9663 080-1004-1197
金曜日 080-7716-8828
参加費 一般の方300円、会員無料

○子どものころを考える
日時 11月7日(木) 10時～12時
講師 精神科医 遠藤季哉先生
(東京さつきホスピタル 副院長)
会場 稲城市地域振興プラザ4階
大会議室 参加費無料 申込不要
主催 稲穂会 (稲城市精神障がい者家族会)
問合せ 高野 ☎090-923-2644
丹治 ☎080-4370-3516

○もしも事件を起こしてしまったら、
事件に巻き込まれたら。
日時 11月16日(土) 午後1時半～4時半
講師 三森 敏明氏
(ヒューマンネットワーク三森法律事務所所長・弁護士)

会場 文京シビックセンター4階
シルバーホール
申込 文京区障害者基幹相談支援センター
☎03-5940-2903

○そもそも心の病ってなんだろう
日時 11月24日(日) 午後2時～4時半
講師 福井 里江氏 (東京学芸大学教授)
村松 秀樹氏 (経験専門家)
会場 都立多摩図書館セミナールームA
主催 国分寺あゆみ会 先着100名
問合せ ☎080-1123-2602 要予約
予約は問合せ先にシヨートメール

編集後記

朝、目を覚ます、さて今日の一歩の仕事、我が家のもう一人の主人、ワンちゃんの散歩に、名前は【セセ】種類はバグ、我が家に来てすでに13年、14歳になります。来たときは全身黒色でしたが、今や足首は真っ白に、お顔も白っぽいこと、セセのおやつと、猫の黒のおやつ、2種類のおやつをバックにいれて、散歩です、予定は1時間程度です。猫の黒は元は家庭猫で、首に保健所の札もありましたが、最近はありません。人付き合いのうまい黒です。散歩しながら、雑誌「みんなねっと」の記事を思いだします。それは「日本の統合失調症の世界にも、黒船が来てほしい」という投稿でした。はて?と思います。幕末は黒船がきて、日本が動き出しました、それは皆さんの方がご存知ことと思います。日本は国連に加盟し理事まで務めています、統合失調症は国連規約に登録して、審査を受けています。その一次審査の回答を問題にしています。黒船は既に来ています、黒船を待つのではなく、すでに黒船の先の先の戦いの進め方を詰めていくことが大事ではないかと思えます。これからどう戦うのか、相手は我々の中のある、日本人の「人間の権利とは?」との問いかけと変化を勝ち取る気概が試されていると、思いながら朝の散歩を続けます。

理事 大山 竹彦

つくしだよりは赤い羽根共同基金の配分を受けて発行しています。